

分担研究報告書

難治性血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形（リンパ管腫）・リンパ管腫症
および関連疾患についての調査研究分担課題 血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン2022
の普及・啓発

岩科 裕己 杏林大学医学部附属病院 形成外科・美容外科 任期制助教

研究要旨

本研究は血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形（リンパ管腫）・リンパ管腫症および関連疾患について、最新のエビデンスに基づいて診療ガイドラインの策定することで、患者、患者家族、医療従事者ならびに一般市民への情報提供に貢献することを目指している。令和5年度は、前年度に発行した「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン2022」（第3版）の普及・啓発を行った。

A. 研究目的

本研究は血管腫・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症およびその関連疾患を対象とし、指定難病、小児慢性特定疾病と照合しつつ、対象を広く医学会、社会・国民に普及・啓発につとめるものである。

本研究班の前身である難治性血管腫・血管奇形についての調査研究班（平成21-23年度佐々木班）において、「血管腫・血管奇形診療ガイドライン2013」が策定・公表された。続いて、平成26-28年度の本研究班（三村班）において、「血管腫・血管奇形・リンパ管奇形診療ガイドライン2017」（第2版）が策定・公表された。

本研究班では、令和2年度から診療ガイドラインの改訂作業を進め、令和5年3月24日に「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン2022」（第3版）を発行した。令和6年度は、その普及・啓発を目的とした。

B. 研究方法

医学会におけるシンポジウムや市民公開講座において、「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン2022」（第3版）の普及・啓発を行う。

（倫理面への配慮）

該当なし

C. 研究結果

学会や論文発表を通して血管腫・血管奇形に関する情報発信やガイドラインの普及啓発を行うことができた。

D. 考察

日本形成外科学会総会・学術集会での活動や雑誌「形成外科」での論文・患者会での講演が主な啓蒙活動となった。対象をさらに広げた啓蒙活動を行なっていく

ために形成外科医以外の複数科の医師が多く参加することが見込まれる学会（血管外科医の多く参加する静脈学会、小児分野の医学会、整形外科分野の医学会など）への普及、啓蒙へと活動を拡大していくことを次年度以降の目標とした。

E. 結論

「血管腫・脈管奇形・血管奇形・リンパ管奇形・リンパ管腫症診療ガイドライン2022」（第3版）の普及・啓発を行った。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 草間峻, 岩科裕己, 他: 当科で脈管奇形に対してシロリムス内服治療を行った22例に関する検討. 形成外科 68(2):186-192, 2025.

2. 岩科裕己, 他: 遊離皮弁により再建した動静脈奇形切除後の長期経過. 形成外科 67(5): 476-485, 2024.

2. 学会発表

1. 岩科裕己, 他: 舌静脈奇形に対する部分切除術と硬化療法の術後創部合併症に関する検討. 第44回日本静脈学会総会, 軽井沢, 2024.6.13-14.

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし